

摘心と光反射マルチで 武庫一寸ソラマメのアブラムシを防ぐ

武庫一寸ソラマメは天平年に兵庫県尼崎市で試作されたのが日本での起源です。農薬に依らないアブラムシ対策で地域ブランド化を進めています。

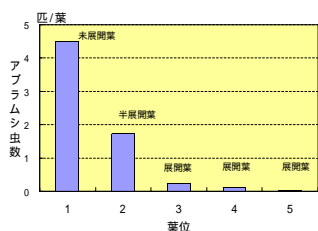


栽培状況



着莢状態

ソラマメのアブラムシは4月下旬～5月初旬に茎の先端に飛来



茎の先端の発生葉位



ソラマメヒゲナガアブラムシ



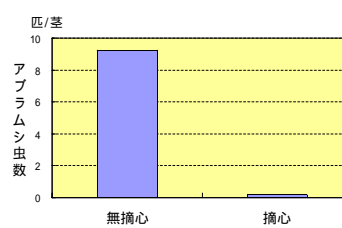
茎の先端部

先端約3葉を摘心、回収すると、アブラムシは劇的に減少する

摘心は従来から子実の充実を図るために行われてきた方法で、発生初期の5月初旬が重要です。もちろん、摘心した茎葉は確実にほ場外に搬出します。株の基部から発生する側枝にも着きやすいので除去します。

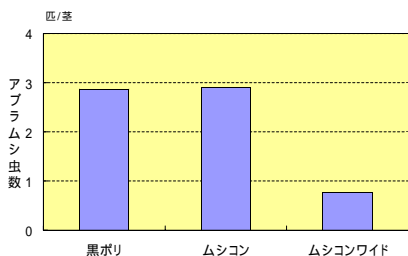


茎の先端部の葉を摘心、回収



摘心後のアブラムシ防除効果

光反射マルチによるアブラムシ忌避効果も有効



マルチの種類とアブラムシ飛来数



ムシコンワイドマルチ

兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター園芸部